



今年度、4回目の「不登校を考える学習会」は、ミニコンサートと講話・おしゃべり会を行いました！

実施日：平成30年1月12日（金）
場 所：小郡市人権教育啓発センター

あたたかい雰囲気の中、39名の参加者で学習会を行いました。

前半は、自らも不登校の経験をもつC&S音楽学院の学院生 稲富 翔さんのミニコンサートを行いました。ビリージョエルの「オネスティ」とオリジナル曲である「浅い夢」の2曲を披露してくれました。独学でピアノを学んだ稲富さんの演奏に会場全体が引き込まれました。中学校に行けないとき「休んでいいよ。」という言葉かけが気持ちを楽しんだこと、その言葉より自分のきつさをわかってもらえたことが何より嬉しかったという思いも伝えてくれました。



《稲富 翔さん…ミニコンサートの様子》

後半は、ぼちぼちの会会長の 木村 素也 さんに、「不登校支援の輪を広げよう」をテーマに講話をしていただきました。

学校では、いろいろなこまり感をもって生活している子どもがいること…例えば、黒板をノートに書き写すという教師が当たり前に行っていると知っていることが苦手な子いることなどをきちんと認識し、黒板をデジカメで撮影し、後でノートに書き写すといった配慮や支援が必要ということが話されました。そういった子どもたちの状況を丁寧に引き継いでいくことの重要性も話されました。



《木村 素也さん…講話の様子》

他にも、日本の子ども達は、自分が好き・自信があるといった自尊感情が低いということから、結果ではなく、その努力の過程を認めて褒めること、そのためには、子どもたちを色めがねで見ないで、子どもたち一人ひとりをしっかり見つめることが大事と話されました。

最後に「地域の方も来てありますが、経験のない子どもたちは、大人の言葉をストレートに受け止めます。『学校に行かないといい大人になれない』ではなく、子どもや親の苦しさに共感し、協力してできることをやっていきましょう。」と参加者へのメッセージを伝えてもらいました。



福岡県教育委員会では、教職員など子どもたちに関わる関係者が子どもたちのことを理解し一貫した継続性のある支援を受けることができるように「ふくおか就学サポートノート」を作成しています。詳しくは福岡県教育委員会HPをご覧ください。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/e04//support.html>



《最後に少人数でおしゃべり会を行い悩みなどを共有しました》

○ 参加者のアンケートより

- ・子どもは、アドバイスではなく、共感をしてくれる理解者を必要としていることを忘れないでいたいです。
- ・不登校の子どもをつくっている一因は教育システムにもあるという言葉に教育現場に関わる者として考えさせられることがありました。子どもの目線に立って言葉かけをしているかをもう一度振り返りたいと思います。